

JR大久保～魚住駅間の新幹線車両基地計画

私は賛成ではない。JRの意向で、市は全くの白紙

泉市長が市議会で答弁 「JRに確認中、賛否の段階ではない」

JR大久保～魚住駅間の農業振興地域に新幹線の車両基地が計画されていることについて、12月5日の市議会本会議で丸谷聡子議員（未来明石）の質問に対し泉市長は「新聞報道に驚いた。JR側にそのような話があることは、ふわっとした話は聞いているが、ずいぶん先の話で、詳しいことを確認中の段階だ。JRの意向であって、賛否の段階ではない。私個人としては賛成ではない」と答えました。9月26日にJRと「包括連携協定」を結んだのは、ホームドアや明石駅のユニバーサル工事、西明石駅周辺の整備、踏切改善などを総合的に進めていくためのもので、車両基地計画は視野には入っていなかった」としています。

また、本年度から事業を開始する予定だった同地域の農業用水パイプラインの整備が凍結されていることについて、宮脇副市長は「新駅構想も出てきている中で、二重投資になるかもしれないので、いったん中止した」と、車両基地計画との関連を否定しました。

「環境保全」か「開発促進」か？ まちの将来像めぐり対立の“火種”に

丸谷議員は「騒音などの公害による住環境の悪化や、治水等の防災面の弱体化、自然環境の破壊による生物多様性の断絶、農業政策の後退」などを挙げて、SDGsを推進する市の方針に逆行すると反対しました。これに対し、同じ日の一般質問で寺井吉広議員（自民党真誠会）は、同地域の市街化調整区域の土地利用見直しと開発促進を求めた質問の中で「車両基地はまちの活性化につながる」と計画促進を求める質問を繰り返しました。

車両基地計画は具体化しても20年先の完成目標という先の話だが、明石市の長期的なまちづくりのあり方をめぐり「環境保全」か「開発促進」か—という2つの立場が対立する大きな“火種”になっていくのは必至です。

討論集会 これでもいいのか！市庁舎建て替えの進め方

「市民まちづくり連続講座 in 明石」の第19回講座は、年明け1月11日（土）に再び「新庁舎整備計画」を取り上げ「緊急討論集会」として開催します。

新庁舎建て替え問題は、市議会が10月に突如「現在地での建て替えを早急に進める」決議を全員一致で採択し、新しい段階に入りました。市は「議会の意思を尊重して取り組む」としていますが、このままでは市民への説明も市民参画の手順もないがしろにしたまま、2020年3月には「基本計画」が決まり、巨額の費用を要する庁舎建設が走り出しかねません。集会には市議会議員の皆さん全員に出席を要請する案内を出します。

市民は、議会は、行政は、どう対応するべきなのか？ 皆で話し合いませんか。どなたでも参加していただけます。

第19回 市民まちづくり連続講座 in 明石

日時 2020年1月11日（土）午後1時30分～4時30分

会場 ウイズあかし8階 市民活動支援センター・フリースペース（アスパシア明石8階）

テーマ 討論集会「庁舎の建て替え計画は、どう進めるべきか！！」

※無料。事前申し込みは不要。どなたでも参加できます。当日会場にお越しください。

促進決議 審議不十分なまま、拙速ではないか？

市庁舎建て替え

明石市議会に「公開質問書」提出、市長には要望書も

新庁舎を現在地で建て替えた場合の概算費用について、市は138億円としています。実際には、周辺整備費なども必要になり、140億円を超す大規模な公共事業になります。市議会の推進決議では、防災面や市民参画に対する配慮を“付帯条件”として尊重するように求めています。議論が不十分なまま放置された問題点は数多くあります。

このため、市民自治あかしは12月議会開会に合わせて12月4日、6つの問題点に絞って「公開質問書」を大西洋紀議長と穂原成人・新庁舎整備検討特別委員会委員長に提出しました。また、泉市長に対しても同日「市民への説明」や「計画過程への市民参画」を行うよう求めた要望書を提出しました。

市議会への公開質問書の質問事項は、次の通りです。

質問事項についての詳細は、市民自治あかしのホームページにアップしています。<http://shiminjichi-akashi.net/>

1. 唐突な9月26日の特別委員会議決、審議は尽くされたのか？
2. 「庁舎のあり方」についての議論がないまま、早期建て替え促進決議でいいのか？
3. 市庁舎建設に「市民の参画」をどのように保障していくのでしょうか？
4. 市庁舎の防災対策について、災害時にも必要な機能をどう考えられていますか？
5. 数ある候補地から「現在地」を適切と判断した根拠は何ですか？
6. 決議の決め手になった国の財政支援は、本当に有効なものになるのでしょうか？

年末からパブコメ開始 1月5ヶ所で市民説明会

新庁舎基本計画（素案）を発表 国の支援メニュー適用めざす

明石市は12月16日開かれた市議会新庁舎特別委員会に対し「新庁舎建設基本計画素案」を報告し、国の財政支援メニューである「市町村役場機能緊急保全事業」の適用期限に間に合わせるスケジュールを進めることを発表しました。

市議会決議に沿って、「現在地建て替え」で「防災機能の強化に万全を期す」とともに「市民参画も適切に行う」としています。来年3月議会に「基本計画案」を提出して策定し、来年4月から設計者の選定に入り、2020年度中に基本設計を完成し実施設計に着手。2021年度中に実施設計を完成し、2022年度には施工業者を選定して着工するというスケジュールを示しました。

報告された「基本計画素案」は本文41ページにおよぶ資料で、基本理念として「すべての人にやさしいスリムでスマートな庁舎」を掲げ、4つの整備方針を示しています。①災害時の対応力強化 ②バリアフリー・ユニバーサルデザインの導入 ③効率的な行政サービスの提供 ④環境への配慮とライフサイクルコストの縮減—をめざし、高層階には展望レストランや市民ギャラリー、中層階には議会や行政執務部門、低層階は窓口部門や市民活動スペースを配置するとしています。

市が考える「市民参画」は「パブコメと市民説明会」程度の“ごまかし”か

また、市民参画については、基本計画素案は12月下旬からパブリックコメントを開始し、1月上旬～下旬に5地区（明石、西明石、大久保、魚住、二見）で5回の「市民説明会」を開く。基本設計の段階ではどのような対応をするかは、今後他市の事例も調査しながら検討するとしています。国の支援メニューに間に合わせることを最優先したスケジュールでは、計画づくりに「本来の市民参画」のプロセスを組み入れることは時間的に難しくなり、市が考える「市民参画」は「パブコメと説明会」程度しか考えていないことが露呈した格好です。

この委員会では素案の説明を除けば正味約50分の質疑だったが、委員の質問は「敷地の半分強を15億円で売却する案の可否」や、新庁舎建設位置の2つの案、消防分署や駐車場、市民会館の建て替え問題などに集中しました。